キャラクター名: ツイナ

プレイヤー名:

種族	エルフ	種族特徴	暗視、剣の加護/優しき水		
生まれ	神官	性別	女	年齢	21
冒険者Lv	8	経歴	憧れる冒険者がいる		
経験点	3270		師と呼べる人物がいる		
			絶対に知られたくない秘密がある		

		能力値	A-F	成長	他修正	能力値	ボーナス
技	9	器用度	7			16	2
		敏捷度	12	3		24	4
体	5	筋力	6			11	1
		生命力	7	6		18	3
心	12	知力	11	5		28 + 2	5
		精神力	10	8		30	5

技能	Lv.	技能	Lv.
プリースト/フルシル	8		
セージ	7		
エンハンサー	1		
アルケミスト	1		
デーモンルーラー	7		

戦闘特技

鋭い目	2120p		p
弱点看破	2121p		p
魔法拡大/数	1-289p		p
武器習熟A/スタッフ	1-281p		p
MP軽減/プリースト	1-283p		p
魔力強化	2-230p		p
	p		p
	p		p
	p		p
	p		p
	p		p

言語	会話	読文
エルフ語	○	○
交易共通語	○	○
神紀文明語		○
ドレイク語	○	
汎用蛮族語	○	○
魔神語	○	
魔動機文明語	○	○
魔法文明語	○	○
妖精語	○	
リカント語	○	

練技/呪歌/騎芸/賦術

メディテーション		
バークメイル		

技能

	技能レベル	基本命中力	基本回避力	基本追加ダメージ
ファイター	0			
グラップラー	0			
フェンサー	0			
シューター	0			

鎧と盾

		ランク	必要筋力	回避力	防護点
鎧	ソフトレザー		7		3
盾					
その他補正(防具習熟/回避行動 etc)					
回避技能		合計値		0	3

武器	用法	必要筋力	命中修正	命中力	C値	追加ダメージ	威力	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
マナスタッフ 魔力+1、魔法の武器である	2H	3	1	2d+ 1	12	1	13										
				2d+													
				2d+													
				2d+													
				2d+													
				2d+													
				2d+													
				2d+													

制限移動	通常移動	全力移動
3 m	24 m	72 m

回避	防護点
2d+ 0	3

HP
44

魔物知識/弱点	先制力
2d+ 12	2d+ 0

生命抵抗	精神抵抗
2d+ 11	2d+ 14

MP
77

魔法技能	Lv.	魔力	魔法技能	Lv.	魔力
神聖魔法	8	15			
召異魔法	7	14			

	装備品	説明
頭	女神のヴェール	回復魔法のC値を10に
耳	魔神の兆章付きイヤーカフ	
顔	聖印（フルシル）	ゆかりさんの目玉焼きみたいなの。
首		
背中		
右手	知力の腕輪	
腰	アルケミーキット	
足		
その他	聖王の冠	出目0でも回復可

	装備品	説明
左手	信念のリング	

その他メモ

出た理由: 身分を隠すため

元はブルライトから離れた大都市におけるイーヴ神殿の神殿長の娘であった。
父はイーヴ神官界の反召異魔法派閥の幹部の一人であった。しかし、ツイナは10歳になっても一切イーブ様の声は聞こえず、修行として父が治める神殿とは別のイーヴ神殿で働き始めた。その神殿内の一神官には隠れて召異魔法を学んでいるものがおり、ツイナはその神官が偶然魔神を召喚しているところを目撃する。
とても興味が引かれたので、それを機にツイナはその神官に召異魔法を習うようになり、すくすくと習熟度を上げていった。

父が視察の際に、ツイナに会いに来た時、ツイナは父が反召異魔法使い派閥に属していることは知らなかったため、自分の使い魔を父に自慢してしまう。ツイナに召異魔法を教えた神官は神殿より放逐され、冒険者となり都市から去っていった。また、娘が召異魔法をある程度（レベル3）習熟していることが、反召異魔法派閥内において出世を狙っている輩にバレてしまったら幹部である自分が叱り上げを食らい、失脚

自動失敗チェック

□□□□⑤
□□□□⑩
□□□□⑮
□□□□⑳
□□□□㉕
□□□□㉚
□□□□㉟

キャラクター名
ツイナ

プレイヤー名

一般装備品	(消耗チェック)
初期資金	○□□○□□
冒険者セット	○□□○□□
テント	○□□○□□
保存食	○□□○□□
5点魔晶石x16	○□□○□□
魔香草x12	○□□○□□
宝石x5	○□□○□□
ゾンビの目玉	○□□○□□
緑Ax6	○□□○□□
緑Bx10	○□□○□□
	○□□○□□
バックラー	○□□○□□
	○□□○□□
	○□□○□□